



### 室津地区活性化推進協議会



豊浦町室津地区にある鍍絵こてえを知っていますか。

小さな路地に入ると、そこには人々の手によって生み出された歴史がひそかに息づいています。豊浦町に残るいくつもの鍍絵は、この地を訪れた左官職人達の軌跡であるとともに、当時の民衆文化や歴史背景を抱える貴重なものです。

#### 鍍絵とは

鍍絵とは、日本で発展したしっくい(石灰に粘土・ふのりなど)を加えて練った壁塗りの材料)を用いて作られるレリーフのことです。左官職人が「こて」で仕上げていくことからこの名前が付けました。

#### 室津地区の鍍絵誕生の由来

明治時代に室津を襲った2度の大火災の復興の際、延焼防火対策がとられました。家の壁面を赤土

で固め、その上にしっくいを塗るといいう、江戸時代からの施工法です。当時、室津には、難しい白壁を塗りこめる左官職人はいませんでしたが、村の再建のため、左官職人が室津地区を訪れ、壁に鍍で描いたのが誕生の由来だと言われ、伝えられています。ただ、家屋再建の時に周囲の美観を考えたのか、魔除けやお祝いのはなむけに描いたのか定かではないそうです。

#### 鍍絵を後世に

鍍絵群がまとまって見られる地域は県内でも珍しいとのこと。希少価値が高く、新築の家屋でも作製されている鍍絵もあるなど、地元の方が鍍絵に愛着をもっているところが室津地区のまちなみとにも評価され、第2回下関市景観賞「風景・まちなみ部門」を受賞しました。これを機に室津地区の活性化を図るため、室津地区活性化推進協議会を結成しました。

その第一歩として、鍍絵を今後どのように保存し、後世に伝えていくのか、その方法を検討する他、観光に訪れる方が気軽に見学できるように、活動を行っています。鍍

絵ウォークが開催される際には、鍍絵群案内人として参加者に解説を行うなど、積極的に鍍絵の魅力を伝えていきます。

「室津地区の鍍絵は建て替えや壁の修復などでほとんど残っていませんが、現在残っている鍍絵は室津地区の大切な文化遺産です。いつまでも保存したいですね」と、会員の若林繁さん。そんな思いを胸に皆さんは活動しています。

室津地区のまちなみと鍍絵を見て、当時の民衆文化や歴史背景を想像してみたいかがでしょうか。

#### ★見学される方へ

室津公民館にボランティアガイドを予約すれば、ほぼ全体を見学できます。その他詳細は室津公民館(☎772-0055)に問い合わせを。

- ①大黒様と恵比寿様
- ②今にも飛び出してきそうな躍動感あふれる「龍」
- ③鮮やかな色彩が美しい「浦島太郎」
- ④室津地区の路地の向こうに広がる青い海
- ⑤かまぼこ型のしっくいで盛られた「なまこ壁」を解説する若林さん
- ⑥室津地区活性化推進協議会の皆さん

